

# 平成30年度 事業実績報告書

## 1、専門課程の状況

高知県の少子化で特にビジネス系学科への志望者が減少しているとの報告があるが、学生数を維持するために、引き続き“高知で学んで高知で働く”をスローガンとして、社会が求める人材の育成に力を入れて、学生募集に力を注いだ。

平成30年度の入学者数はコンピュータ会計科13名、ITビジネス科9名、医療情報管理科9名、公務員ビジネス科23名、合計入学者54名であった。公務員ビジネス科は増加傾向にあったが、コンピュータ会計科、ITビジネス科、医療情報管理科の2年生課程の入学者が少なかった。高知県の経理系の学科および医療事務系の学科の学生数は減少しているとの報告はあるが、急激に減少し過ぎている。

高知県は厳しい状況は続いたが、求人倍率は上昇傾向にあり、当校の求人数も増加傾向になっている。また、高知県は公務員への希望が今後も見込めることから、公務員ビジネス科の魅力を紹介しながら、特に1年課程の魅力と2年目以降の経済的な特典を前面に出し、奨学金の対象学科とであることも積極的にPRした結果、学生数の増加につながっている。

2年課程のコンピュータ会計科、ITビジネス科、医療情報管理科については、学科の魅力を再度認識してもらい、今後も学生数を安定確保して優れた人材を高知県に輩出するように努力を続ける。

医療情報管理科については、県内での医療事務関係の学科が苦戦しているとの情報があり、当校も学生募集で学生数が伸び悩んでいる。学生数の増加を図るため、カリキュラムについて改正を実施した。

ITビジネス科は高校生に内容が浸透したようだが、入学者数が安定していない。安定的な学生募集につながるよう工夫する。

就職率については、どの学科も好調で平成31年3月末には就職率98%となった。過去6年間連続で年度末実績98%以上である。

## 2、委託教育事業実績

今年度は高知県立高等技術学校のプロポーザルへの参加は、パソコン教室の確保が厳しい状況であるため、プロポーザルへの参加を見送った。

来期も高知県立高等技術学校のプロポーザルへの参加はパソコン教室の確保および教員の配置において厳しい状況である。

## 3、校友会の充実

高知市保健所の厳しい条件から、Tiac祭が開催できなかったことから、卒業生を学校へ案内することができず、校友会の活動が停滞している。

#### 4、オープンキャンパス及び体験授業の充実

オープンキャンパスの内容がマンネリ化しているため、在学生に手伝ってもらうなどの計画をした。他校との差別化が重要となるので、できるだけ高校生が興味をもつ内容に一新させた。近年は夏休み中のオープンキャンパスへの参加は1年生や2年生が多く、3年生は人数が減少している。7月までのオープンキャンパスに力を入れる。また、最近の傾向としてオープンキャンパスには一度のみの参加で、複数回参加する生徒は減少しているとの報告を受けている。

毎年傾向が変わっているので、来年度は早い時期から傾向をつかみ、参加者数を増加させるように対策を検討する。

#### 5、高等学校での進学相談会および業者主催の進学相談会、その他

高知県専修学校各種学校連合会主催の進学相談会に積極的に参加し、学生募集活動を行った。また、各種進学情報会社主催の進学相談会も増加傾向であるので参加した。進学情報会社主催の進路説明会增加し、回数も増加しているため、参加人数も増加傾向にあるが、比例して参加費の負担が徐々に増加している。また、WEBの広告を初めて実施した。今後はWEBの広告が徐々に多くなる予定。

#### 6、平成30年度新入生数及び卒業生数

平成30年4月 入学者数

	男	女	計
コンピュータ会計科	7	6	13
医療情報管理科	0	9	9
ITビジネス科	4	5	9
公務員ビジネス科	15	8	23
合計	26	28	54

平成31年3月 卒業生数

	男	女	計
コンピュータ会計科	3	5	8
医療情報管理科	0	5	5
ITビジネス科	6	11	17
公務員ビジネス科	15	8	23
合計	24	29	53

学校法人土佐明青学園  
土佐情報経理専門学校